



April 2003 No. 41

(本部事務局)(財)日本特産農作物種苗協会内 〒107-0052 港区赤坂 2-4-1
(つくば事務所) 農業インターネットセンター内 JRTつくば事務所
〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 143-3
TEL 029-856-8708 FAX 029-856-0024
<http://www.jrt.gr.jp>

第7回日本いも類研究会総会の概要報告

去る3月19日に81人の参加者を得て第7回日本いも類研究会総会が開催されました。

10時30分に梅村会長の挨拶から始まり、講演会、総会、その後の懇親会まで盛会に行われました。今回は、総会の概要として、新旧役員挨拶、平成14年度事業報告及び収支決算書、いも類に関する情報交換及び情報発信の効率化についてをお伝えします。レポート、研究成果報告等の講演会の要旨は次号以降にお伝えします。

総会資料につきましては、若干の余部がありますので、ご希望の方は下記までご連絡下さい。

農林水産省 生産局 特産振興課 いも類班 後藤

TEL.03-3502-8111 内 3701 FAX.03-3502-8520

新旧役員挨拶

今回の総会において、日本いも類研究会設立当初から会長をお願いしていました梅村氏が退かれ、新たに井上氏(前副会長)が会長に就任されました。また、新副会長には(有)菊水堂の岩井氏が就任されました。

会長退任挨拶(梅村 芳樹)

設立からの6年を振り返ってみますと、会員、幹事、世話役の皆さんのお陰で「日本いも類研究会」が存在感を強め、いも類に関心を持つ人たちにとどまってはいますが、広く認められてきた6年間だったと思います。ホームページやメーリングリストの運営、新品種の普及(試作)事業の効果は大きく、マスコミや関連企業・消費者からの問い合わせがずいぶんありました。本音で言えば、最も期待した生産関係者の反応が今ひとつ弱かったのが残念ですが、これは生産関係者が忙しすぎてゆとりがなかった、と考えることにします。

この6年間の私個人の廻りの動きも同様でした。フリーターみたいな者で、いろんな人たちと関わってきましたが、いも類に関しては消費者、マスコミ、外食・中食・流通関係者の関心がきわめて強く、新品種や新商品、メニューに意欲的に取り組んでいます。生産関係者の関心、意欲は今ひとつ。産地では農業関連団体よりも役場や村おこしグループの方が積極的でした。

ジャガイモの主産地、北海道では平成12年からの15年間で農家人口は45%(十勝37、網走45%)もの減少が予測されています。サツマイモの主産地も同様でしょう。よほど生産者が頑張らないと、いも類の消費増加は輸入に頼る事になってしまいます。

日本いも類研究会は国産の「安全で美味しい」ジャガイモ、サツマイモなどのいも類を十分供給できるよう生産関係者にも積極的に働きかけて頂きたいと思います。

そんな期待を込めて退任しましょう。

新会長就任挨拶(井上 浩)

この度、日本いも類研究会の会長という重責を担わせていただくことになりました。

初代会長の梅村芳樹先生と同様によりしくお願いいたします。

本会の発足は平成9年でしたから、丸6年経ったことになります。このような会が必要だったにもかかわらず無かったからでしょう、全国各地から研究者、生産者、業者、消費者等々のさまざまな人が入ってくれました。

おかげさまで会の基礎はできました。ただ会員の会への期待は大きいだけでなく、多岐にわたっています。会としてもそれらの要望にどう応えていくのかを、改めて考える時期にきています。

先日の第7回総会でもそれについての活発な意見が交わされました。それを踏まえ、本会をますますいい会にしていけたらなあと考えています。

新副会長就任挨拶(岩井 菊之)

日本いも類研究会の総会で、司会を務めさせていただいたので、参加なさった方は、顔を思い出されるでしょう。時間がありましたら、菊水堂のホームページを覗いてください。そこにも私の顔があります。

簡単な自己紹介をします。1957年1月18日生まれ、植物学者牧野富太郎博士の亡くなった日が私の誕生日です。

趣味は、洋菓子を作るというよりは、食べる方に徹し、植物の分類を学生に教えるというよりは、学生に誘われ山登りに徹しています。

東京薬科大学薬学部薬理学教室を出たのですが、多摩の植物に接し、ラットの世話をした4年間でした。その後、4年間、薬業界で過ごし父の会社に入りました。

じゃがいもとの出会いは、小学1年の頃、両親が台所で、ポテトチップを試作していた頃です。長崎には、小学生時代、北海道には、中学1年の頃、父に連れられ、じゃがいも畑を歩いていました。神田市場などにも、分けが分からず付いて行かされました。今でも分けが分からず、畑を歩いています。

昨年、10月には、米国ポテト協会の招きで、アイダホに行って参りました。飛行機から見る景色は、砂漠に灌漑設備の整った未来基地のような神秘さに包まれていました。いざ、畑を歩くと、北海道の畑を10枚束にしたような畑でしたが、見慣れた枯調剤のかかった畑でした。また、農村風景は、一見のどかでしたが、廃屋も目立ち、競争原理が働いている様を見せつけられました。

私は、洋菓子を食べることが趣味ですが、欧州のお菓子を食べる時に思うのは、文化と農業の偉大さを感じさせられます。フランスなどでは、色鮮やかな果物が、お菓子を華やかに飾っています。美味しいお菓子には、農作物は欠かせません。また、各地におけるそれぞれのアレンジは、それぞれの文化を代表しているのでしょう。街角のスーパーでは、色々な種類のじゃがいもも売られていました。

私自身変わり者と思っています。変わり者の視線が役に立つことがあれば、利用していただければと思います、お引き受け致しました。

霞ヶ関から約1時間のところにポテトチップ工場があります。父は、ポテトチップを作ることで米国の人に過去、大変お世話になりました。その思いが、開かれた工場でありたいとの信念になっています。近隣の小中学生が工場見学に来ます。是非機会があれば、訪れていただきたいと思っております。

新役員(平成15~16年度)

日本いも類研究会役員については、本年度が役員改選期に当たること、設立当時からずっと役員をお願いしている方もいらしかったこと、役員と実際に研究会運営の実務をされている会員が違っていること等を勘案し、会則に沿った役員構成を目指し大幅な役員交代となりました。

会 長	井 上 浩	川越サツマイモ資料館長
副 会 長	岩 井 菊 之	有限会社菊水堂代表取締役
幹 事	中 谷 誠	独立行政法人農業技術研究機構作物研究所 畑作物研究部甘しょ育種研究室長
同	森 元 幸	独立行政法人農業技術研究機構北海道農業研究センター 畑作研究部ばれいしょ育種研究室長
同	入 谷 正 樹	北海道立北見農業試験場作物研究部馬鈴しょ科長
同	中 尾 敬	長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場育種栽培科長
同	矢 野 哲 男	農林水産省九州農政局統計情報部統計調整課長
同	千 田 圭 一	北海道立植物遺伝資源センター
同	丹 羽 優 治	独立行政法人種苗管理センター品種特性審査官
同	郷 家 一 広	独立行政法人種苗管理センター計画課種苗生産計画係長
会計監査	西 澤 治	株式会社ジャパンポテト副社長
顧 問	浅 間 和 夫	ホクレン種苗園芸部園芸総合課主任技師
同	石 田 善 吾	(株)エーコープライン監査役
同	梅 村 芳 樹	むらづくりアドバイザー
同	斎 藤 興 平	株式会社川小商店代表取締役
同	菅 原 龍 幸	聖徳大学教授
同	田 中 智	カルビーポテト株式会社参与
同	田 中 晃	(株)北海道ファームプロダクツ
同	津久井 亜紀夫	東京家政学院短期大学教授
同	中 本 賢	みかど農産株式会社代表取締役
事務局長	矢 野 勇 夫	日本特産農作物種苗協会専務理事

平成14年度事業報告及び収支決算書

1 平成14年度事業報告

JRTWeb のさつまいも館長日記、じゃがいもに関する研究成果、じゃがいもの本棚、さつまいも MiNi 白書、おいもQ&A等のコンテンツを更新・充実した。

じゃがいも及びさつまいものメーリングリストにおいて、メンバー間の情報交流を行った。また、JRTWeb の質問箱に寄せられた150件以上の問い合わせに対し、メーリングリストに紹介するなどして回答し、情報交流に努めた。

「さつまいも MiNi 白書」について内容を更新・拡充し配付するとともに、いも類に係る情報を内容としたFAXニュースレターを5回(36号～40号)発行し、会員に配付した。

さつまいも新品種試験栽培を実施し、パープルスイートロード、サニーレッド、タマオトメ、ムラサキマサリ、コガネセンガンの5品種を試験希望者(344人、608セット)に提供し、新品種等の普及に努めた。

また、15年に向けパープルスイートロード、クイックスイート、ベにまさり、サニーレッド、コガネセンガンの5品種の試験栽培を推進中(3月3日現在の申込状況174名、280セット)。

じゃがいも新品種試験栽培を実施し、花標津、インカのめざめ、十勝こがね、ユキラシャの4品種を試験希望者(324人、471セット)に提供し、新品種等の普及に努めた。

また、15年に向け十勝こがね、インカのめざめ、ベニアカリ、キタアカリ、ホッカイコガネの5品種の試験栽培を推進中(3月3日現在の申込状況245名、401セット)。

「さつまいもシンポジウム」(H14.11.15 東京ビッグサイト)及び実りのフェスティバルにおいて、さつまいも新品種等の展示・紹介への支援を行い、実需者及び一般消費者等に対し広く情報提供を行った。

「ジャガイモシンポジウム」(H14.11.22 南青山会館)において、じゃがいも新品種等の展示・紹介への支援を行うとともに、同日開催されたじゃがいもの試食会を支援し、じゃがいもの新品種を使った新メニューを紹介した。

2 平成14年度収支決算(3月18日時点見込み)

(収入の部)

(単位:円)

	予算額	決算額	増減	備考
1. 前年度繰越金	1,727,502	1,727,502	0	
2. 普通会员会費	1,080,000	633,000	447,000	211名
3. 賛助会員会費	1,950,000	1,530,000	420,000	37社・団体
4. その他収入	0	169	169	利息収入
合計	4,757,502	3,890,671	866,831	

(支出の部)

(単位:円)

	予算額	決算額	増減	備考
事業費	2,550,000	1,269,763	1,280,237	
1.資料編集・配布費	450,000	1,365	448,635	
・通信運搬費	100,000	1,365	98,635	
・消耗品費	150,000	0	150,000	
・原稿料・編集費	200,000	0	200,000	MiNi白書印刷費はUR対策費で対応
2.情報システム構築費	1,400,000	734,293	665,707	
・ネットワーク参加費	400,000	413,500	13,500	JSAIへの参加・FAXニュースレター作成及び配送等
・通信運搬費	600,000	220,793	379,207	ニュースレター-NO.40発行予定経費等 25,000円を含む
・いも類情報発信システム構築・運営費	400,000	100,000	300,000	
3.研究会費	400,000	134,105	265,895	
・試験栽培等活動費	300,000	134,105	165,895	試験栽培宣伝費等
・業務委託費	100,000	0	100,000	
4.総会費	300,000	400,000	100,000	
管理費	630,000	600,000	30,000	
1.業務委託費	600,000	600,000	0	JSAIへの事務局業務委託
2.通信運搬費	0	0	0	
3.消耗品費	30,000	0	30,000	
小計	3,180,000	1,869,763	1,310,237	
予備費	1,577,502	0	1,577,502	
次年度繰越	0	2,020,908	2,020,908	
合計	4,757,502	3,890,671	866,831	

いも類に関する情報交換及び情報発信の効率化について

< 提案 >

日本いも類研究会活動は活発に行われてきたが、一方で、研究会の運営に係る人的負担が増大している。また、ウルグアイラウンド対策費等を活用した事業と事業内容が重複しているものも多い。このため、研究会の事業・情報交換手法を見直し、運営の効率化を図ってはどうか。

< 経緯 >

- 1 日本いも類研究会は、かんしょやばれいしょ等の「いも類」に情熱を抱いている方々が幅広く自由な立場で情報交換することを主たる目的として、平成9年3月21日に設立。
- 2 主な活動内容に、
インターネットを広く利用してホームページ等の「いも類情報ネットワーク」を構築し、情報を広く発信

インターネットでのメーリングリストの運営により情報交換を推進
FAXニュースレターを発行
「さつまいも MiNi 白書」及び「じゃがいも MiNi 白書」を編集・作成
いも類の新品種についての試験栽培を実施
いも類の品質評価手法等についての研究会を開催
いも類の消費拡大等を目的としたシンポジウムへの開催の協力
マイクロチューバー等新技術の利用のための栽培実証を支援
を設定し、本年度まで活発に活動。

< 課題 >

- 1 会則に掲げられた事業と毎年実施している事業に乖離が見られ、また、人的要因から会則に掲げられた事業の全てを実施するのは困難。
- 2 設立当初に比べ、電子媒体を利用できる環境は格段に整ったが、研究会の情報発信や運営事務はファックスや郵便等の人的負担の多い伝達手段が利用されており効率性が低い。
- 3 「さつまいも MiNi 白書」、「じゃがいも MiNi 白書」の作成については、発行間隔が定められていなかったが、人的労力の関係から隔年交互発行が定着。

< 具体的な提案 >

- 1 研究会の事業を、現在の中核事業である
ホームページの運営
メーリングリストの運営
試験栽培の実施
ニュースレターの発行 (FAX、郵便での発行中止)
「さつまいも MiNi 白書」、「じゃがいも MiNi 白書」の編集 (発行間隔は定められていなかったが隔年交互発行を標準化)
その他特に必要な事業
に整理してはどうか。
- 2 研究会の運営、情報発信手段については、「さつまいも MiNi 白書」、「じゃがいも MiNi 白書」及び総会案内を郵送で行うことを除き、日本いも類研究会ホームページへの掲載及びインターネットを利用したメーリングリストによる掲載通知に一本化し、会員へ周知を徹底することにより、情報発信、運営事務の簡素化及び運営経費の節減を図ってはどうか。
- 3 個人加入の原則を改め、賛助会員を法人会員とし、加入口数に応じたメーリングリスト加入枠を付与することにより研究会内の情報交換の活性化を図ってはどうか。併せて、当面、現在年会費3千円の個人会費を2千円に引き下げ、個人会員の加入促進を図ってはどうか。

- 4 総会については、参加者数の増加を図る観点から、現在、午前中から開催している研究会、総会及び懇親会を合わせて半日開催とすることにはどうか。また、開催日の設定しづらい2～3月開催を改め、5～6月開催を基本に3ヶ月以上前に開催日を決定することとしてはどうか。
- 5 「検討委員会」を設置し、以上の内容を基本とした会則改正案の作成を行い、臨時総会で審議いただいたのち、現会員、賛助会員への継続加入を主体とした新たな会員募集を行ってはどうか。
また、「検討委員会」委員は、会長、副会長、幹事、メーリングリスト管理者、ニュースレター発行管理者、特産振興課いも類班、特産農作物種苗協会としてはどうか。
- 6 「検討委員会」では、会則改正案の審議に併せ、ニュースレター、メーリングリストの活性化対策、質問箱への対応体制も併せて検討してはどうか。
- 7 その際、
 - (1) ニュースレターについては、これまで会員の加入メリットとして会員専用ページに掲載していたところであるが、いも類の国内生産力を維持・増進するという本来の目的に立ち返り、会員だけでなく、消費者、実需者、生産者に広く情報提供するという観点から、今後は一般公開ページに掲載することとしてはどうか。
 - (2) メーリングリストについては、じゃがいもとさつまいもの2つのメーリングリストを運営しているところであるが、近年、アクセス回数が少なくなっていることや会員外の登録もあることから、2つのメーリングリストを一本化し、併せて新たに参加者を募集し直すこととしてはどうか。

【事務局提案に対する意見】

- ・ 事務局提案では、インターネットを利用できない会員が不利益となる。このようないわゆるIT弱者への対応が必要であり、個人会員への会費は引き下げずIT弱者への対応に当てることを検討すること。
- ・ IT弱者への対応等今回の事務局提案については、アンケート調査を行い会員の意向を的確に反映させること。

現在、事務局提案の具体化を図るため、提案どおりに「検討委員会」を組織し、検討を開始しています。